

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

| |
|---|
| <p>一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校</p> <p>1. 確かな学力と課題解決能力（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校</p> <p>2. 豊かな人間性（自分だけでなく他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校</p> <p>3. 地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校</p> <p>4. 次世代リーダー（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校</p> |
|---|

2 中期的目標

| |
|--|
| <p>1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成</p> <p>(1) 新たな大学入試制度に対応するとともに、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編成と授業の充実を図る。</p> <p>ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。</p> <p>イ 習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。</p> <p>ウ 専門コースの授業内容の点検改善を図り、新学習指導要領への円滑な実施をめざす。</p> <p>授業アンケート（2回）の学校平均3.20（30年度3.18）をめざす。</p> <p>2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性をはぐくむ</p> <p>(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組を推進する。</p> <p>ア 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。</p> <p>イ 生徒会などと連携した朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。</p> <p>ウ 「心の教育」を充実させ、ルール、マナーの遵守を求めていく。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが安心して安全な学校をつくりをめざす</p> <p>ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。</p> <p>(3) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。</p> <p>ア 身近な事柄を通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。</p> <p>学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合85%以上（30年度84.9%）、「相談できる先生がいる」生徒の割合65%以上（30年度62.2%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合75%以上（30年度74.7%）をめざす。</p> <p>3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る</p> <p>(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。</p> <p>ア 生徒の進路実現に向けた進路指導体制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、パソコン検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。</p> <p>イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。</p> <p>生徒の進路希望実現率（志望先への合格率）90%以上（30年度84.2%）をめざし、進路未決定者を3%未満（30年度4.3%）に減少させる。</p> <p>4 地域と連携した魅力のある学校づくり</p> <p>(1) 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。</p> <p>ア 広報活動と強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。</p> <p>イ PTA やNPO 等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。</p> <p>ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。</p> <p>学校教育自己診断における「大学の先生をはじめと外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合80%以上（29年度79%）をめざす。</p> |
|--|

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>【学習指導等】</p> <p>「確かな学力」と「学び」への主体性の育成、自己実現」を重点目標として取り組んだ。「ICTを活用するなど）教え方を工夫し、わかりやすい授業をめざしている先生が多い」（生徒対象）79.6%（昨年73.8%）、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（生徒対象）66.3%（昨年58.4%）と教員は授業改善に取り組んでいる。しかし、「授業は、わかりやすい」（生徒対象）の肯定的意見が69.1%（昨年71.2%）と伸びておらず、今後の課題である。また、「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」（生徒対象）80.6%、「本校の進路指導のシステムは信頼できる」（保護者対象）75.5%など、進路指導に関する満足度は高く、進路実現に向けたきめ細かな指導・取組みが信頼を得ている。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>「学校生活について、先生の指導に納得できる」（生徒対象）63.1%（昨年64.4%）、「先生</p> | <p>第1回（令和元年7月29日）:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校だけでなく高等学校では、基礎学力の定着とコミュニケーション能力の向上は特に重要である。卒業後の進路を決定する上で必要なことであるが、将来社会に出てからもコミュニケーション能力は問われる。 ・大阪府において中学生の人数が減少しているが、特に南河内地区においては顕著である。懐風館高校存続のため、志願者を増やすためには、魅力ある授業内容の展開や部活動の活性化などが必要であり、中学生にアピールしていかなければならない。 <p>第2回（令和元年12月20日）:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実績だけでなく、四年制大学等の指定校の内容についての中学校、中学生の保護者に対する広報も意味があるのではないか。 ・校外の清掃活動も、地域に対する本校のイメージアップにもつながっている。いろいろ |

府立懐風館高等学校

| | |
|---|---|
| <p>は協力して生徒指導に当たっている」(生徒対象)75.8%(昨年78.2%) 学校の生徒指導の方針(挨拶の奨励、時間厳守、身だしなみ等)には共感できる」(保護者対象)76.7%(昨年74.8%)など、生徒指導の取組みへの信頼は維持されている。</p> | <p>るな場面で、生徒が地域で活動する機会を増やすべき。 ・中学生向け体験入学についてはさらに中学生が楽しく参加できるような内容・形式の充実を検討すべきである。 第3回(令和2年2月20日) ・学校教育自己診断の結果から、教育活動の大きな方向性は適切であると判断できる。肯定的意見の割合が低い項目も、その背景の分析をしっかりと行い、適切な改善策を策定・実施して欲しい。「めざす学校像」「中期的目標」については承認。 ・羽曳野市との連携等一定の成果があったが、地域貢献や教育活動の充実のためさらに地域連携を進める必要がある。</p> |
|---|---|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------------------------|--|--|---|---|
| <p>1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成</p> | <p>(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。 ア 授業などの学習指導方法の工夫と改善を進める</p> | <p>ア 教師の指導力の向上を図る 企画会議、授業改善委員会、サービスラーニング委員会(SL委員会)が中心となりからに組織的に取り組む授業改善 年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する 授業アンケートの実施とその分析及び課題解決 校内教職員研修の充実 ICTを活用研修 ・他校訪問研修 経験の少ない教員に対する研修 ・経験の豊かな教員、指導教諭による個別研修・進路指導研修 専門コースの充実 ・専門コース科目の実践 ・外部機関と連携した保育実習 ・高大連携授業や外部講師の活用等 専門コース科目「サービスラーニング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善 働き方改革の促進 授業のICT活用とともに、校務のICTをはかる。</p> | <p>ア ・授業アンケートによる肯定的評価学校平均81%以上 (30年度は、2回平均80.1%) ・学校教育自己診断「先生は、他の先生の授業を見学に来る」生徒の割合58%以上(30年度56.3%) ・実施回数の達成度(30年度は9回実施、上回ることが目標) ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の割合72%以上(30年度71.2%) ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の割合60%以上(30年度58.4%) ・ICT活用率の向上 学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」(30年度82.4%)</p> | <p>ア ・授業アンケート結果をもとに、独自の分析資料を作成。授業改善、「わかる授業の実現」の評価は十分でないため、引き続き、取組みを継続する必要がある。 授業アンケートによる授業満足度 2回平均81.4%() 学校教育自己診断 「先生は、他の先生の授業を見学に来る」50.5%() 教職員研修の実施回数は7回(校長研修4回外部講師3回)() 「授業がわかりやすい」全体69.1%() 1年70.3% 2年63.1% 3年73.9% 3年は目標達成 学校教育自己診断 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は、66.3%() 「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」79.6%()</p> |
| <p>2 豊かな人間性をほぐす</p> | <p>(1) 豊かな人間性の涵養 ア 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成させる</p> | <p>ア 規範意識の醸成 あいさつ励行 個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導 毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間(各1週間)を実施。 家庭と連携し、生活規律の基盤を安定させる 教育相談体制の充実 隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。 あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p> | <p>ア ・生徒の年間遅刻総数1000以下を維持する (28~30年度総数平均939) ・学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合の向上(30年度84.9%) ・学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合の向上(30年度62.2%) (教育相談件数30年度62件) ・学校教育自己診断で「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合の向上(30年度76.6%)</p> | <p>ア ・年間遅刻総数2500() 「時間を守る」ことについては、目標達成には至らなかった。昨年からの増加傾向であったが、指導のあり方について検討していく。 ・学校教育自己診断 「挨拶を励行している」生徒は76.2%() 「相談できる先生がいる」(生徒対象)59.4%() 生徒にとって気軽に相談できる先生がいる割合が低い。教員のカウンセリングマインドのさらなる醸成が課題。 ・「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合72.2%()</p> |
| <p>3 「志」や「夢」をほぐす</p> | <p>(1) 3年間を見据えたキャリア教育の推進 ア 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実</p> | <p>ア 生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現の達成 効果的な進路関係行事の実施計画 進路体験行事、懐風館に大学等の出前講義等の実施 補習や進学講習などの機会を充実させる 教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める</p> | <p>ア ・学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の割合を維持する。(30年度82.3%) ・学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上(30年度28.5%)</p> | <p>ア ・学校教育自己診断 「進路についての情報提供がされている」(生徒対象)80.6%() 「将来の進路や生き方について考える機会がある」(生徒対象)82.2% 「進路指導のシステムは信頼できる」(保護者対象)75.6% ・補習・講習の参加した生徒は27.9%()</p> |

府立懐風館高等学校

| | | | |
|--------------------------------|--|---|--|
| <p>4 地域と連携した魅力のある学校づくり</p> | <p>(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 ア 中学校訪問、学校説明会等広報活動のさらなる充実</p> <p>(2) 地域と連携した取組みの推進 ア 外部機関と連携した教育活動の推進</p> | <p>(1) ア ・専門コースの設置や学校の様々な取組みを、中学生や保護者に周知する スライドDVD、WEBを活用して、広報活動の充実をはかる 中学校訪問や学校説明会(部活動体験・授業体験・学校体験等)を充実させる</p> <p>(2) ア ・地域と連携して、福祉ボランティア体験活動を実施する</p> | <p>(1) ア ・中学校訪問回数や説明会等への参加者数を維持する。(H30 説明会(本校実施)参加者数 364名) 外部パンフレット配布 1410部)</p> <p>・HPの更新数を昨年以上とする。(30年度HPの更新回数 131回)</p> <p>(2) ア ・福祉ボランティア諸活動の参加生徒数前年度より上回る。(30年度 支援学校との交流参加者 37人、ボランティア参加者 48人)</p> <p>・中学訪問 150回、学校説明会(本校主催)参加者 370名() ・外部パンフレット配布 1500部() ・ホームページ更新回数 82回()</p> <p>・地域の福祉、ボランティア活動() 参加者合計人数 85名(西浦支援学校との交流、高齢者施設訪問、いしかわ福祉フォーラムなど)</p> |
|--------------------------------|--|---|--|